

こたえ さいおう 塞翁が馬

基礎 ④

塞翁が馬 (中国の古い話)

昔、中国の北の国境の近くに、塞翁というおじいさんがすんでいました。ある日、おじいさんの馬が、国境をこえてにげてしまいました。近所の人々がなくさめに来ると、おじいさんは言いました。「これが、よいことにならないとはかぎらないよ。」

何か月かたつと、にげた馬が、りっぱな馬をつれて帰ってきました。人々がおいおいに来ると、おじいさんは言いました。「これが、悪いことにならないとはかぎらないよ。」

しばらくして、おじいさんのむすこが、その馬から落ちて、足のほねをおってしまいました。それでも、おじいさんは「これが、よいことにならないとはかぎらない。」と言いました。

一年後、戦争が起こり、村のわかい男たちは、みな兵隊としてつれていかれました。けれども、むすこは足のけがのため、行かずにすんだのです。

この話から、人生のよいことや悪いことは、先まで分からないという意味で、「塞翁が馬」と言うようになりました。

1 にげた馬は、何をつれて帰ってきましたか。

り
っ
ぱ
な
馬

2 むすこが足のほねをおったとき、おじいさんは何と言いましたか。

ア これは、とても悪いことだ。

イ これが、よいことにならないとはかぎらない。

ウ もう馬にはのるな。

3 できごとの順に、□に1・2・3を書きましょう。

3 むすこが馬から落ちる。

1 馬がにげる。

2 馬が、りっぱな馬をつれて帰る。

4 「塞翁が馬」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 人生のよいことや悪いことは、先まで分からない。

イ 馬は大切にしなければならぬ。

ウ おじいさんの言うことは聞くべきだ。